
KELES Newsletter

関西英語教育学会ニュースレター No.4
2006年7月25日(火曜)発行



会長挨拶

瀬川 俊一 (京都府立大名誉教授)

新体制で始動します。

暑中お見舞い申し上げます。会員の皆様がお元気にご活躍の日々を想っております。

7月22日(土)の臨時総会に於きまして、5月28日(日)の総会で提示された諸懸案事項の承認をして頂きました。会員の皆様方にお礼申し上げます。

総会では、審議事項(規約・規程の改定、ならびに、新役員体制)の承認を受け、本学会の新しい活動方針について報告させて頂きました。

とくに重要なものは、下記の2点です。

(1) 紀要のいっそうの活性化

紀要の編集方針に見直しを行いました。紀要編集委員会の説明記事で確認を頂き、多くの会員の皆様方が投稿して下さいますようお願いしております。

(2) 「地区セミナー」の刷新

会員の皆様のニーズをふまえ、本年度より、京阪神3地区では、最新の英語教育学関連トピックをじっくり学べる「連続ワークショップ」を開催することになりました。原則として1回2コマ、年3回で合計6コマ程度の講義を行います。これらのワークショップは、会員は無償で参加でき、参加者には、学会より修了書が発行されます。教員免許証の更新が話題になっていますが、将来的には、本学会での修得単位がその際に貢献出来るようになることを願っております。また、奈良地区・和歌山地区では、従来どおり、研究会形式のセミナーを継続して実施いたします。ワークショップやセミナーで研修を希望される事項について、事務局幹事までお申し出ください。

会員の皆様方が本学会の主役です。主役としての誇りと自覚を持って、今後とも積極的に学会行事に参加して研修の実を挙げてくだされば嬉しく思います。事務局幹事一同、一丸となって本学会のために頑張りたく思っています。ご支援のほどお願いいたします。

会員の皆様方が不順な天候にも左右されずに、お元気にご活躍になる日々を想いながら。

(7月23日、大暑の日に)

臨時総会報告

*日時：2006年7月22日(土)午後3時30分～4時

*会場：関西大学千里山キャンパス第1学舎3号館AV-B教室

*議長：和田勝明氏(常磐会学園大学)

決議事項

1) 規約改訂の手続きの件

臨時総会への出席者数が32であったが、委任状会員数と未返送会員による議決権の議長への一任により、出席者のみによる多数決で学会の議決とすることが有効であり、そのことの承認を議場に諮ったところ、全員異議なくこれを承認可決した。

2) 規約改訂の件

前回のNLで同時発送された規約改訂案の主旨が「学会規模に見合った組織作り」、「決定の迅速化」、「活動のいっそうの活発化」の3点であることが再度示された。具体的には、1)全国英語教育学会構成他学会の役員構成にそえるため、副会長を2名程度に増員すること、2)事務局員を幹事と改め、事務局会議を幹事会とすることにより、実動組織の位置づけと責任を明確化すること、3)理事を評議員に変更し、一定の増員を行うことで、学会運営のサポート体制の増強をはかること、がそれぞれ改訂規約に反映されていることが示された。その承認を議場に諮ったところ、全員異議なくこれを原案どおり承認可決した。なお、字句訂正は幹事会へ一任する旨も同時に了承された。

3) 新役員体制の件

規約改訂案の主旨に相応しい人員配置を行うため、関西英語教育学会新役員(案)を提示した。その承認を議場に諮ったところ、全員異議なくこれを原案通り承認可決した。(新役員表参照)

報告事項

1) KELES運営システムの整備

次の3点が主なものです:

理事を評議員に改組し、一定の増員を行うことで学会運営のサポート体制の増強を図る。

事務局員を改め、幹事として幹事会に再編し、責任体制を明確化する。

関連他学会との整合性から、副会長を2名程度に増員し、内1名を幹事長が兼務する。

2) 幹事の事務分掌の再編方針の策定

実動組織の位置づけと責任を明確にするため、次のように分掌を明確化します:

ア) 人員配置と役割

- * 総務(吉田幹事長): 幹事会主催, ニュースレター(年4回)・大会プログラム編集
- * 会計(岡幹事): 口座管理, 出金, 総会報告等
- * 会員情報(倉本幹事): 全国名簿含む会員名簿管理
- * 渉外(会長): 後援依頼・報告等
- * 書記(嶋林幹事): 議事録作成
- * IT(杉森幹事): ホームページ管理, メイリングリスト整備
- * 広報(石川(保)幹事): ニュースレター編集, リーフレット・ポスター作成
- * 出版(藪内副会長): 卒論・修論研究発表セミナー予稿集編集(CD)、業者交渉
- * 規約(石川(慎)幹事): 規約規定整備
- * 紀要(石川(慎)幹事): 紀要編集, 紀要論文賞選定を含む

イ) 全幹事による業務

- * セミナー開催、卒論・修論研究発表セミナー開催
- * 大会プログラム作成, 講師選定・依頼, 発表応募原稿審査依頼
- * 大会・各セミナーにおける当日業務

3) 2006年度年間事業スケジュール

具体的な日程・会場・講演者を示した各イベントを提示し、会員の皆様のさらなるKELESへの参加をはからせていただきます(日程、講師などについては変更の可能性もあります):

日時	行事名	会場	概要
7月22日 (土)	2006年度第1回 セミナー	関西大学	「シャドーイング指導の実際～明日から使うためのコツ～」(倉本充子・伊藤佳世子講師) 講演:「われわれは、20世紀から何を学んだか」 (大谷泰照講師)
8月5日 (土)～6日 (日)	全国英語教育学会高知研究大会	高知大学朝倉キャンパス	問題別討論会(KELES担当)「語彙習得 - 新しい研究の視点 - 」
9月30日 (土)	定例幹事会	龍谷大学	第2回セミナー準備他
10月14日 (土)	2006年度第2回 セミナー	(神戸)三宮 研修センター	「言語教材の難易度分析手法の入門—コーパスを教室でどう使うか—(仮題)」(石川慎一郎講師)*別添案内を参照
11月18日 (土)	定例幹事会	龍谷大学	第3回セミナー, および, 卒論・修論研究発表セミナー準備他
11月	紀要第29号刊行	—	
12月初旬	2006年度第3回 セミナー	京都地区予定	評価・テスト関係 (清水裕子講師)
1月	2006年度第4回 セミナー	天理大学	(担当: 中井評議員)
3月10日 (土)	第10回卒論・修 論研究発表セミナー	大阪地区	1月末: 申し込み締め切り 2月20日: 予稿集原稿提出締め切り
3月	2006年度第5回 セミナー	和歌山地区	(担当: 奥田評議員)
3月末	紀要第30号刊行	—	10月末日: 投稿締め切り *別添案内を参照

なお、イベント開催地区の偏りを避けるため、今後は、下記の基本方針で会場選定を行います。

	大会・総会	卒論・修論研究発表セミナー	地区セミナー
2006年度	京都	大阪	京・阪・神・奈良・和歌山
2007年度	大阪	神戸	同上
2008年度	神戸	京都	同上
2009年度	京都	大阪	同上
2010年度	大阪	神戸	同上

4) セミナー

従来の開催形式について見直しを行い、今日的ニーズの高いワークショップを中心としたものに変更します。これにより、現場の先生方を中心に、会員のみならず非会員の参加者が見込まれます。将来的には、本学会が初中等教育機関の教員研修機関として認定されるよう、教育委員会への共催を働きかけます。今回の大阪セミナーでは、そのための布石として参加者に2時間分の研修修了証を発行しました。

5) 印刷物発行, 広報

ニューズレターは年4回の発行を予定しております。今後, No.4(7/25); No.5(9/14); No.6(12/16)を順次発行する予定です。(ただし, 多少前後する場合があります。)

6) 紀要

今回、規約改訂とともに、紀要委員会においては、次のような主旨のもとに、紀要の発行規程と投稿要領の改訂を行うことになりました：

1. 全国英語教育学会紀要ARELEの方針に準じ、原則として、投稿論文は、KELES / 全国英語教育学会の大会における口頭発表済論文であることを条件とする（これに伴い、現在のKELES大会予稿集は廃止する）
2. 大会口頭発表を経ない論文の投稿も受理するが、その数は一定の枠内とする。
3. 委嘱原稿を除くすべての論文は、複数の査読委員がブラインドで審査を行い、採否が決定される。
4. 投稿料は5千円とする。
5. ページ数は10ページに限定する。
6. 30号については、第10回記念研究大会予稿集に提出済みの内容を加筆・修正した原稿の応募も認める。

詳細は、同封の「関西英語教育学会紀要『英語教育研究』発行規程」、および、「関西英語教育学会紀要『英語教育研究』投稿要領」をご参照下さい。

紀要関係の今後の予定：

- 7月25日 SELT第30号原稿募集要綱発表
- 10月末日 SELT第30号投稿締切
- 11月末 SELT第29号刊行
- 2007年3月末日 SELT第30号刊行

2006年度関西英語教育学会役員

名誉会長

安藤昭一(京都大学名誉教授)

顧問

沖原勝昭(神戸大学)

織田 稔(元関西大学)

齋藤栄二(関西大学)

宮本英男(元同志社大学)

会長

瀬川俊一(京都府立大学名誉教授)

副会長

籾内 智(京都精華大学)

吉田信介(関西大学)*幹事長(事務局長)兼任

幹事長(事務局長)

吉田信介(関西大学)

幹事

石川慎一郎(神戸大学)*紀要編集委員長兼任

石川保茂(京都外国語大学)

岡 良和(人間環境大学)

倉本充子(広島国際大学)

嶋林昭治(龍谷大学)

杉森直樹(立命館大学)

評議員

赤野一郎(京都外国語大学)

今井裕之(兵庫教育大学)

奥田隆一(和歌山大学)

加藤雅之(神戸大学)

清水裕子(立命館大学)

竹内 理(関西大学)

玉井 健(神戸市外国語大学)

中井英民(天理大学)

西本有逸(京都教育大学)

溝畑保之(大阪府立鳳高等学校)

横川博一(神戸大学)

吉田晴世(大阪教育大学)

紀要編集委員

石川慎一郎(神戸大学)*委員長

泉恵美子(京都教育大学)

里井久輝(摂南大学)

長谷尚弥(関西学院大学)

会計監査

佐藤恭子(プール学院大学)

大喜多喜夫(関西学院大学)

*任期は2006年7月22日～2008年総会

*同職位内では50音順

KELES2006年度大阪セミナーワークショップ

「シャドーイング指導の実際～明日から使うためのコツ～」

倉本充子(広島国際大学)、伊藤佳世子(関西学院大学・非)

関西大学のCALL教室を利用してこのワークショップが開催されました。シャドーイングというのは、音声情報として与えられた英文をスピーカーの発話とほぼ同時にテキストを見ずに逐一模倣、再生させる発話作業のことですが、近年語学の授業でよく取り入れられるようになってきました。魅力あるテーマのWSでしたので、30名もの方が参加されました。

WS前半では、シャドーイングの効用について理論背景を踏まえて説明がありました。第二言語処理研究、特に、人の情報処理の機能的側面記憶研究の結果を踏まえる神経言語学の研究より、学習には作動記憶の機能が大きく関わっており(Baddeley, 1986, 1999, 他)、その一部である音韻ループは言語獲得を高める役割を果たしている(Baddeley, 1999, 2000: p.418) ことなどが解明されました。このことにより、シャドーイングの効用が裏付けられました。

次に、シャドーイング実践について、CALLシステム利用の場合、CALLシステムがない普通教室の場合、WB Tを利用した場合に分けて、それぞれについて説明がありました。シャドーイングは、聞こえてきた音を即座に繰り返すため、英語本来の発音にのっとった音声を記憶し学習できるという長所もありますが、その一方、聞こえてきたものを繰り返すのは、高度な処理が必要となるという短所もあります。そこで、その解決法として、学習者の能力を(i)とすると、(i-2)、あるいは(i-3)というような、かなり易しい教材を利用することが必要であるという注意点が指摘されました。CALLシステムを利用した実践では、テスト、mumbling、synchro reading、prosody shadowing、contents shadowing、録音、評価(音声データ)という一連の流れが示されました。学生の音声データを回収、学生側に評価を提示することで英語学習に対するモチベーションを上げることができる、習熟度を視覚的に認知できる、モニターシステムにより授業中、個別に習熟度をチェックできる、学習者自身が発音等をチェックできる、練習問題を学生側に一斉に配布し、添削できるなどCALLを使用する利点がある一方、一度に100人近くの評価をする必要があるなどの苦労話もお聞きしました。次に、WebITsを利用したWB Tによるシャドーイングは、授業内外で、また、学内学外を問わず学習者が利用でき、個人の記録が蓄積される長所があることが報告されました。評価方法としては、自分の発話を録音しネイティブスピーカーのものと比較する、提示された音声波形により録音した音声を視覚的にとらえる、一定の語句、発音、抑揚などについて指導者がチェックする、Fill in the blank quiz、Listening Comprehension、Summary作成に至るまできめの細かい作業がなされていました。参加者が実際にログインし、体験学習することができました。最後に、普通教室でも工夫次第でCALL並みの指導ができるという示唆がありました。

予定時間を過ぎてもお質問や意見が出されるなど、楽しく充実したWSでした。新生KELES第1回目を飾るにふさわしいWSだったと思います。

報告: 藪内 智(京都精華大学)

講演

「われわれは、20世紀から何を学んだか」

大谷泰照先生(大阪大学名誉教授)

「英語の達人」は、本当に「異文化理解の達人」なのか、との問いで講演が始まった。第2次世界大戦中に、いわゆる「英語の達人」と言われている文化人が採った行動執筆

活動、等を具体的に固有名詞を挙げながら解説された。

鈴木貫太郎のような開明的な政治家、山本五十六、米内光政、井上成美のような文化的海軍関係者、中野好夫、大田実のような英語の達人であるとともに、真の異文化理解者も居た。しかしながら、総じて、異文化への理解が乏しい、あるいは、ほとんど持ちあわせていない外交官、文化人(？)、陸軍軍人が大勢を占めていたために、日本の進路に重大な過ちをもたらした。

私達は、この体験から何を学ぶべきだろうか。外交官には、異言語の達人であるばかりではなく、異文化理解が可能な真の開明的な文化人を選出する、各国に対応する対外広報機関を増設する、戦争再発防止機構としてのEUに学ぶ、等の課題が課されている、と言える。

20世紀から最も学ばねばならないことは、不戦共同体としての世界構築(共生社会の実現)に向けて努力することではないか。そのためには、「真の異言語教育」重視のLingua Programme拡充への不断の努力が必要である。日本の外国語教育が英語教育一辺倒であることは、その意味からも再検討を要するのではないか。

上記のような主旨の講演であった。豊富な資料に基づいて、人物描写の際にはエピソードにも触れながら聴衆を魅了する講演であった。

本年7月1日付けの「世界の言語教育の実情調査」を資料として配布して頂いた。『英語教育現代キーワード事典』(増進堂、1991)に「諸外国の外国語教育(2)」(pp.540-546.)として執筆された資料の最新改訂版である。折々に眺めながら、先生が講演で強調されたかったことを考えたく思っています。

7月22日(土)の諸企画の掉尾を飾るに相応しい講演を拝聴できたことを会員の皆様方とともに慶びたく思います。

(瀬川俊一記)

会計よりお知らせ

* 会費納入のお願い

年会費は以下の通りです。

- | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|
| 1. 一般会員(関西のみ) | 5000円 | 2. 一般会員(関西+全国) | 7000円 |
| 3. 学生会員(関西のみ) | 3000円 | 4. 学生会員(関西+全国) | 5000円 |

* 郵便振込: 00910 - 7 - 39666

* 加入者名: 関西英語教育学会

年会費に関するお問い合わせは、会計 岡 良和まで [oka[[@](mailto:oka@juhe.ac.jp)]juhe.ac.jp]

第32回全国英語教育学会高知研究大会

* 日時: 2006年8月5日(土)~6日(日)

* 会場: 高知大学朝倉キャンパス

* 問題別討論会 (KELES担当): 「語彙習得 - 新しい研究の視点 - 」

提案者: 倉本充子(広島国際大), 藪内 智(京都精華大), 石川慎一郎(神戸大)
石川保茂(京都外大), 杉森直樹(立命館大)

* シンポジウム: 「日本の英語教育を考える - 小学校英語教育の課題と方向性 - 」

提案者: 萬谷隆一(北海道教育大), 内田伸子(お茶の水女子大),
堀江祐爾(兵庫教育大), 金谷 憲(東京学芸大)

* 大会ホームページ: <http://www.el.kochi-wu.ac.jp/kochi2006/>

* 問合せ先: [nasu\[\[@\]\(mailto:nasu@cc.kochi-u.ac.jp\)\]cc.kochi-u.ac.jp](mailto:nasu@cc.kochi-u.ac.jp)

関連学会情報

第46回外国語教育メディア学会全国研究大会

- * 日時: 2006年8月2日(木) ~ 4日(土)
- * 会場: 京都産業大学
- * テーマ: 「学習者の自律に果たす教員とメディアの役割」
- * 基調講演者: Dr. Ken Beatty (前香港大学・フリー教材作成者), 岩崎克己 (広島大学)
- * 全体シンポジウム: 「学習者の自律に果たす教員とメディアの役割」
- * 問合せ先: secretariat2006@let-kansai.org
- * 学会HP: <http://www.let-kansai.org/>

紀要DVD販売のお知らせ

待望の紀要DVDが刊行: 英語教育研究の全貌をPCデスクトップに!

会員特別価格 3,000円

『英語教育研究』過去28年分, 『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』過去9年分をすべて電子化。鮮明な画像で論文を通読できるほか, OCRによるテキスト情報を埋め込みましたので, 論文内の単語などでの検索も可能になりました(ただしOCRの認識率は100%ではなく, 完全な検索はできません)。

KELESの歩みの記録として, また, 英語教育研究の必携情報レポジトリとして, ぜひお手元におそろえください。

購入に関するお問い合わせは, 会計 岡 良和まで [oka[@]uhe.ac.jp]

新入会員 (4月29日以降7月22日まで)

古樋 直己	杉浦 香織	恵藤 崇	伊藤 佳世子
浦崎 和香	坂本 智香	川本 朋子	范 然
鍛冶 大佑	名和 正博	天谷 ことみ	小野 仁
中川 めぐみ	鈴木 理恵	平本 幸治	高木 智記
泉 憲二郎	二宗 美紀	山崎 崇史	松村 淳一
山口 均	石井 敦子	櫻井 苑利香	森下 美和
西田 晴美	種井 一郎	福田 真里	宮田 裕子
森山 美雪	山口 博己	小笠原 良浩	小関 静枝
谷 紀子	吉田 勝雄		

(敬称略, 入会順)

なお, 最新情報を学会ホームページ: [<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>]に
随時掲載いたしますので, こちらの方もご覧いただきますようお願い致します。

関西英語教育学会事務局

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

関西大学外国語教育研究機構 吉田研究室内

Tel: 06(6368)0477 (ダイヤルイン)

E-mail: keles@infoseek.jp

KELES
◡

学会創設10周年
記念ロゴマーク